


発行者／中核地域生活支援センター
 いちはら福祉ネット
 (千葉県委託事業)
 ☎ 0436-23-5300
 FAX 0436-23-5225
 Mail ichihara_f.net@bh.wakwak.com
 HPはこちら→ 

人とつながる・社会とつながる

～社会的孤立を防ぐ参加支援の場づくり事業～



今日、皆さんは何人の方と言葉を交わしましたか？ご近所さんとのあいさつ、顔見知りの方とのちょっとした世間話、職場の同僚との雑談、気心知れた友人との他愛のない会話、趣味の仲間との熱の入った会話、などなど。あるいは、ご家族との口ゲンカの場合もあるかもしれません。

わたしたちは、日常の中のさまざまな場面で、誰かと言葉を交わしたり、お互いの存在を確認し合ったりしています。もし、そのような相手がいない毎日であったらどうでしょう。

日本の社会と人々の生活の変化

日本では従来、血縁（親子や兄弟姉妹、親類）・地縁（町内会など住んでいる地域をベースとした関係）・社縁（職場や会社をベースとした関係）という3つの「共同体」を基礎として社会のしくみがつくりられてきました。

しかし、近年では地域のつながりが弱くなりました。また、未婚化が進行して家族機能は低下しています。さらに、終身雇用や年功賃金、企業別労働組合といった日本型の雇用慣行も大きく変わりました。これまでの「共同体」が役割を果たせなくなったのです。

現代の人びとが抱える生きづらさやリスクは、社会の変化の中で、複雑化・多様化しています。「社会的孤立」や「8050問題」、「ダブルケア」といった言葉を、皆さんも一度は耳にされたことがあるのではないのでしょうか？実はこれらのことは、決

して他人ごとではなく、誰にでも起こりうるのです。そして、弱まった従来の「共同体」では、十分支えきれないということも明らかになっています。

「第4の縁」と新たなつながり

そのような中、全国各地で、多様なつながりや社会参加の機会を作り出す取り組みがされています。そこでは、従来の3つの縁とは異なる「第4の縁」が生まれています。

また、人びとが抱える問題を解決するのは、福祉の領域に限ったことではありません。むしろ、福祉だけでは解決できないことも多く、地域産業や住民、地域で活動するたくさんの方々の方がつながりあってこそ、解決できます。そして、まちや暮らしや人間関係が豊かに成熟していくのです。

「参加支援の場づくり事業」とは

さて、市原市でも、人と人、人と社会がつながり支え合う取り組みに力を入れています。今年度、新たに「参加支援の場づくり事業」が始まりました。

参加支援の場づくり事業の役割

- ① 社会とのつながりを作るための支援を行う
- ② 利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる
- ③ 本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う

* 社会福祉法第106条の4第2項第2号による

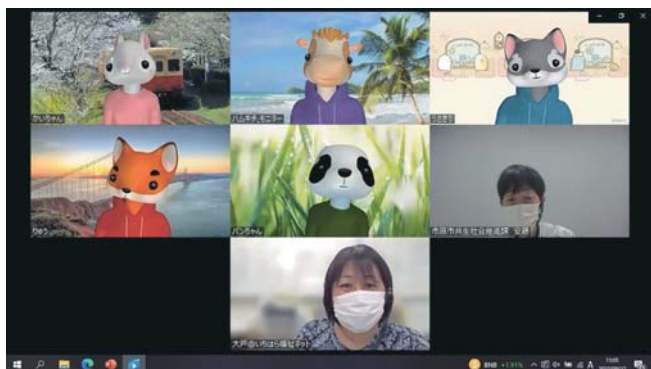
いちほら福祉ネットでは、母体法人が本事業を受託したことを受け、社会的に孤立しがちな方、ひきこもり状態にある方、就労に困難を抱えている方などを対象に、さまざまなプログラムを用意し社会参加の機会を提供しています。その様子をご紹介します。

「みんな×たのカフェ」の活動の実際

ある日の午後、当センターの会議室はカフェスペースに早変わりします。BGMが流れ、淹れたてコーヒーのいい香りが漂います。その日の気分で気に入ったマグカップを選び、思い思いにドリンクを注ぐと、スタッフも交えながら、おしゃべりをしたりゲームをしたり。時には、公園で散歩や軽スポーツをしたりも。ここでは、みんなが対等な関係。参加者もスタッフも、各々が呼んでほしい名前呼び合います。



▲みんな×たのカフェでのゲームの様子
アナログなゲームは初めてという方も



▲オンライン座談会ではアバター設定で
対面の負担感を軽減

当初は緊張気味でスタッフとだけ話していた方も、回を重ねるにつれて、参加者同士でコミュニケーションが成立していきます。新たな一面を発見することもあります。みんな×たのカフェの由来は「みんな

でこの場を考える×お茶の時間をたのしむカフェ」です。だんだんと自分たちの『場』として捉えてくださるようになり、次にやってみたいことや運営する上で工夫できることなど、建設的な意見を出していただけるようになります。

やがて、ご本人の強みや興味の方向を把握しながら、地域のさまざまな団体と繋げていきます。例えば、PC操作が得意な方には、認知症の方向けにデジタルデバイスを活用した活動をしている団体でのボランティア活動へと結び付けたり、元気に動ける方にはフードバンクや高校での食料の搬入出作業に加わってもらったり。

そのようなことを積み重ねることで少しずつ自信が付き、ちょっと苦手なことにも「やってみようかな」とチャレンジしてくださる場面も。

一方で、「参加したい」という気持ちがありながらも、なかなか最初の一步が踏み出せないという方もいます。気持ちを受け止めながら、焦らずにお誘いを続けています。

今後の活動

今後は、支援機関からの依頼にお応えしながら、参加者の受け入れ拡大を考えています。

また、活動内容も、市原市内の医療や美容の分野、飲食店など、多くの方の協力を得て、様々な体験メニューを開拓していく予定です。

「一步踏み出したいけど勇気やきっかけがない」「行くとって約束はできないかも」という方、メールでもご相談をお受けできます。ご連絡お待ちしております。

支援機関の方、一度見学にいらっしやいませんか？一緒に支援の幅を広げていきましょう。

孤立やひきこもりの問題に関心のある企業・団体の方、体験の受け入れや「こんなことなら協力できるよ」とのご一報、大歓迎です。

市原市で始まった新たな取り組みを、多くの方と一緒に進めていきたいと考えています。

問合せ

いちほら福祉ネットへ。連絡先は表紙参照。

市原市主催 介護・福祉職フォーラム 「私たちが伝えたいこと」

介護・福祉に興味・関心のある方へ向けて、福祉コース卒業の現役職員より進路や、介護施設での1日、最新機器を紹介します。興味のある方は是非ご参加ください。

【日時】 令和5年2月5日(日) 13:00～15:30

【場所】 市原市市民会館 2階 会議室

【内容】 高校の福祉コース、福祉系専門学校への進路と職場紹介、家庭で活かせる介護技術など

【参加対象者】 市内在住で介護に興味関心のある方、福祉に興味がある中学・高校生とその保護者

【参加費】 無料

【申込】 事前予約制／先着25名
運営事務局の稲毛ペコリーノまで
TEL 0120-86-5124
(木・日曜日除く9時～17時)

働く・学ぶ世代のケアラーズカフェ @chibaおどり場

概ね18歳から60代の働きながら、または学校で勉強しながら家族や親せきの介護をしている人を対象にしたオンラインの集いの場です。

ふだん周りの人には言えない介護の悩みやちょっとした愚痴をお話してみませんか？

【日時】 令和5年3月26日(日) 14:30～15:30

【場所】 zoomオンライン (マイク・カメラがない方は相談の上、参加できます)

【参加対象者】 就労しながら、または専門学校や大学に在学しながら介護をしている18歳以上の人

【参加費】 無料 (自由な名前で参加できます)

【申込方法】 QRコードまたはURLからお願いします
<https://forms.gle/WFnbAJroS1mAUhfC7>



【申込締切】 当日の12:00まで

【主催・問合せ先】

千葉県福祉ふれあいプラザ介護実習センター
TEL 04-7165-2886
メール kaijitsu@furepla.jp



テーマ 第14回 千葉県障害者グループホーム大会 未来に繋ぐグループホーム 開催！

～今、求められているもの～

グループホームの設置数・入居者数とともに入所施設を上回り、量的な確保は充足されてきている一方で、地域で当たり前の生活を送るための支援力・生活の質の向上には課題が山積みです。

今年度は「ニーズはあるけれど受け皿が少ない」ケースについて、支援の考え方や取り組みを学び、サービスの多様性について共に考えていきたいと思います。詳細は下記の通りです。

配 信：令和5年2月1日(水)～2月28日(火) WEBによる配信のため定員の制限なし

内 容：講演①「グループホームってどんなところ？ ～制度について知ろう～」

講師：大宮 俊介氏 市原圏域障害者グループホーム等支援ワーカー

講演②「罪を犯した障害がある人への支援 ～グループホームに求めること～」

講師：岸 恵子氏 千葉県地域生活定着支援センター センター長

実践：らいおんホームそが (千葉市)、ease (船橋市)

参加費：無料 どなたでもご参加いただけます。

申 込：氏名、所属、ご住所 (市町村)、電話番号、メールアドレスを記入のうえ、FAXかメールにてお申込み下さい。右記のQRコードからもお申込みできます。

FAX：043-222-4133 (送付状不要)

メール：chiba.ghw@gmail.com

問合せ：千葉県健康福祉部障害福祉事業課事業支援班 043-223-2308

主 催：千葉県 (千葉県障害者グループホーム等支援事業)、千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会





旬の食材を使ったヘルシーメニュー

家族みんなで食べられるお餅風おやつ

青のり入り大根もち (1人分：78Kcal)

材料(4人分)

大根おろし 150g(大根1/2本)、片栗粉 60g、青のり 0.3g、塩 少々、
サラダ油 小さじ1 ④砂糖 小さじ1、しょうゆ 小さじ2、みりん 小さじ1

- 作り方…① 大根をすりおろし、軽く汁を絞る。
② 形が作れるくらいの硬さになるように片栗粉を加えて混ぜる。青のり、塩を加えて混ぜる。手で丸く形を作る。
③ フライパンに油を薄くひき、弱火で焼く。
④ 一度火を止め、大根もちを端に寄せ、④をフライパンに入れ、火にかけてながらタレを大根もちにからめる。

栄養士さんからのおすすめの一言・・・

「大根は熱を加えることで、甘味が増し、抗酸化作用もアップすると言われています。片栗粉の量を減らして硬さを調節すれば、小さなお子様からお年寄りまで食べられます。」

今回のレシピは、介護老人保健施設 姉ヶ崎ケアセンター 管理栄養士 井堀 郁美様に提供していただきました。

いちほら福祉ネット活動報告

(10月～12月)

〈会議〉

- ・市原市相談機関連絡会 [10/18]
- ・重層的支援体制整備事業における多機関協働事業の実施状況に関する実態把握及び効果的な実施方法に関する調査研究事業 検討委員会 [10/4,12/23]
- ・市原市認知症対策連絡協議会 役員会 [10/6,12/19]
- ・市原市認知症対策連絡協議会 定例会 [10/20]
- ・市原市要保護児童対策地域協議会 実務者会議 [10/25,11/29,12/22]
- ・市原市障がい者支援協議会 権利擁護部会 [10/19,11/29]
- ・市原市相談支援事業所連絡会「銀杏の杜」 [11/25]
- ・千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業 市原圏域実務者会議 [12/19]
- ・特別支援学校特別支援コーディネーター連絡協議会 [10/26]
- ・市原地域リハビリテーション広域センター ちーき会 [10/27,11/18]
- ・市原市成年後見制度利用促進協議会 [10/21]
- ・DV被害者支援連絡会議(市川・市原・千葉) [11/1]
- ・国際交流・協力等ネットワーク会議 [10/26]
- ・法テラス千葉地方協議会 [10/28]
- ・加茂地区民生委員児童委員協議会 [10/11]
- ・市原市社会福祉協議会 理事会 [12/16]
- ・千葉県社会福祉協議会 政策調整委員会 [10/24]
- ・中核地域生活支援センター連絡調整会議 障害部会 [11/24]
- ・中核地域生活支援センター連絡協議会 定例会 [10/25,11/22,12/27]
- ・中核地域生活支援センター大会in2023実行委員会 [12/27]
- ・高等学校等における居場所設置・相談支援事業運営会議 [10/25]

〈研修〉

- ・DV・児童虐待相談スキルアップ研修 [10/11]
- ・社会的養護の子どもの暮らしと自立を考えるシンポジウム [10/9]
- ・市民シンポジウム「子ども・若者が直面する課題を考える」 [11/26]
- ・千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業 研修 [10/17]
- ・千葉県てんかん拠点病院市民公開講座 [10/29]

- ・いちほら健幸まちづくりプラン自殺対策ワークショップ [12/23]
- ・市町村ひきこもり支援担当者研修 [11/16]
- ・司法と福祉千葉モデル勉強会 [10/24,11/24,12/20]
- ・全国生活保護裁判連絡会・第28回総会交流会in千葉 [10/30]
- ・よりそいホットライン報告会&貧困問題に関する懇談会 [10/21]
- ・フードバンク10周年記念イベント [10/29]
- ・重層支援研究会 [10/22,12/10]
- ・中核地域生活支援センター連絡協議会 学習会 [11/16]
- ・中核地域生活支援センター連絡協議会 交換研修 [12/12]
- 〈その他〉
- ・市原市子ども家庭総合支援課内研修(講師派遣) [11/11]
- ・ぴあ基金運営委員会(講師派遣) [10/22]
- ・ちはら台地区福祉の総合相談(出張相談) [10/22,11/19,12/17]
- ・青葉台地区福祉介護相談(出張相談) [10/18,11/15,12/20]
- ・市原市認知症あんしんフェスタ(運営) [11/13]
- ・第15回市原市精神保健福祉フェスタ(運営協力) [11/12]
- ・市原市多分野連携研修(運営) [11/8,12/6]
- ・市原市参加支援の場づくり事業[みんなのカフェ](運営) [10/31,12/26]
- ・校内居場所カフェ事業[生浜ライトカフェ](運営) [11/30,12/21]

いちほら福祉ネットへの相談件数 (速報値)

令和4年10月～令和4年12月

延相談件数 1,009件(新規46件)

相談方法	電話	780件	対象者	高齢者	65人
	訪問	152件		障害者	430人
	来所	59件		児童	49人
	関係者会議	8件		その他	465人

令和4年度(4月～12月) 延相談件数 3,038件

編集後記

2023年が始まり1か月が経ちました。今年の干支「卯年」は、ウサギが飛び跳ねるといふ姿から「跳躍の年」と言われており、縁起が良い年として知られているそうです。ウサギにあやかり、さまざまな困難も飛び越えて良い一年にしていきたいです。(スタッフ一同)

